

学会賞

	著者（敬称略）	題名
1950年度	坂本安一	不明
	番場嘉一郎	不明
1951年度	飯野利夫	計算原則と報告原則
1952年度		該当作なし
1953年度		該当作なし
1954年度		該当作なし
1955年度		該当作なし
1956年度		該当作なし
1957年度		該当作なし
1958年度		該当作なし
1959年度	西川孝治郎	ホイトニーと簿記
1960年度	小倉栄一郎	江州中井家帳合の法について
1961年度	高松和男	現代会計の原理
1962年度	染谷恭次郎	収支計算書の比率分析および貸借対照表計画の重要性
1963年度	江村稔	処分済利益剰余金の会計
	不破貞春	払込剰余金をめぐって
1964年度	富岡幸雄	税務会計と企業会計の調整
	諸井勝之助	原価計算基準における間接費の研究
1965年度	木村重義	企業会計原則修正の方向
	別府正十郎	資本会計の経済理論
1966年度	峯村信吉	会計理論の収益性概念と継続企業概念
	吉田寛	会計における集合と同質

1967年度	西沢脩	貢献差益法による長期利益目標の設定
	合崎堅二	巨視的会計と微視的会計
1968年度	武田隆二	企業利益と課税所得の差異
	小林健吾	管理会計の領域と体系
1969年度	岸悦三	一六七三年フランス商事勅令規定における商業帳簿並びに財産目録について
	岡本清	管理会計における情報と測定
1970年度	奥村 恵一	アカウンティング・フロート原価計画
	遠藤久夫	EDP会計におけるカレント・コストの意義
1971年度	井上清	電算機簿記
	佐藤信吉	総合償却率算定条件と新しい算定式
1972年度	森田哲彌	時価論の動向と問題点
	津曲直躬	予算統制と行動科学
1973年度	斎藤静樹	アメリカ財務会計理論の再把握
1974年度	斉藤隆夫	管理会計上の利益概念
	原田富士雄	会計理論の方法
1975年度	川口順一	棚卸資産評価の論理構造
	森川八洲男	減価償却の生成史的考察
1976年度	山口達良	原価計算と適正価格計算
1977年度	門田安弘	情報システムとしての管理会計の体系
	安藤英義	商法会計における債権者保護思考の系譜
1978年度	櫻井通晴	原価計算対象の変遷
	白鳥庄之助	英国カレント・コスト会計制度化の検討
	鳥羽至英	財務諸表監査における立証プロセスと究極的要証命題の構造

1979年度	河野正男	社会責任会計と社会会計
	伊藤博	固定費管理
	藤田幸男	会計基準の設定主体について
1980年度	片岡泰彦	フッガー家の会計諸表について
	加古宜士	インフレーション会計の展望
	山下正喜	三菱造船所の原価計算の史的発展
1981年度	宮本寛爾	国際振替価格に関する一考察
1982年度	興津裕康	西ドイツにおける貸借対照表論の現状とその検討
1983年度	飯田修三	企業損益会計・企業付加価値会計・企業社会会計
	廣本敏郎	米国生成期管理会計論の成立と展開
1984年度	嶺輝子	基準書第13号発表前のリース会計に関するビッグ・エイトの見解
1985年度	新田忠誓	貸借対照表の示す財政状態について
	森藤一男	物価変動と取得原価主義会計
	原田満範	会計概念フレームワークの諸相
1986年度	桜井久勝	一般投資者保護とタイムリー・ディスクロージャー
1987年度	石塚博司・河榮徳	会計方法の変更に対する資本市場の反応
1988年度	田中弘	企業会計原則の法的認知
	津守常弘	会計基準設定の現代的特徴と方向
1989年度	河崎照行	会計方針の変更に関する概念的枠組みと実態分析
1990年度	広瀬義州	会計情報の拡大と変化
	佐藤倫正	資金収支表の現代的意義
1991年度	柴健次	金融資産の証券化と資産の認識
	岡部孝好	『利』と『害』の会計学とその日本的展開
	五十嵐邦正	静態論にもとづくわが国会計理論の再検討

1992年度	伊藤邦雄	連結決算制度に対するわが国証券市場の学習効果
	今福愛志	会計基準の展開と米国会計学の位置
1993年度	北村敬子	会計環境の変化と財務報告の課題
	須田一幸	契約の経済学と会計規制
1994年度	浅田孝幸	目米企業のSBUの事業戦略と業績管理
1995年度	藤井秀樹	取得原価主義会計における未来事象と利益測定
	浜本道正	日本型会計システムの特徴とその成立過程
1996年度	尾畑裕	原価計算論の再構築
1997年度	徳賀芳弘	利益数値の国際比較方法
	大塚宗春	リスク管理と会計
1998年度	友杉芳正	会計認識領域の拡大における経済的実態把握とその監査対応
	黒川行治	企業結合とのれんの会計の検討
	山本浩二	感性領域への管理会計の拡大
1999年度	薄井彰	クリーンサープラス会計と企業の市場評価モデル
	百合草裕康	連結キャッシュ・フロー情報の有用性
	八田進二	会計情報の拡大と監査可能性
2000年度	岡野浩	日本の管理会計のグローバリゼーション－原価企画の国際比較
2001年度	該当なし	
2002年度	石川博行	利益の時系列特性と配当に対する市場の評価
	大塚成男	会計基準の設定活動を分析するための枠組み
	角ヶ谷典幸	棚卸資産の低価基準と固定資産の減損処理－割引現在価値を中心にした分化的・統合的解釈の試み－
2003年度	壺岐芳弘	総資本に対する実質資本維持論の構想－実体資本維持論と実質資本維持論の統合に向けて－
	音川和久	新会計基準とマーケット・マイクロストラクチャー
	橋本尚	新世紀における財務報告の課題と展望

2004年度	倉田幸路	会計理論の変遷と利益概念
	佐々木隆志	監査における会計構造の意味
2005年度	該当なし	
2006年度	中野誠	無形資源と競争優位性・リスクの分析 – 日米におけるdouble-edged sword仮説の検証 –
2007年度	梅原秀継	会計主体と株主持分 – 一般理論および連結基礎概念の適用をめぐって –
2008年度	高田知実	経営者の裁量行動と継続企業の前提に関する追記の開示
2009年度	藤野雅史	公的部門における管理会計の統合プロセス – 米国連邦政府の業績予算 –
2010年度	岡田幸彦	サービス原価企画への役割期待 – わが国サービス分野のための研究教育に求められる新たな知の体系の構築に向けて –
2011年度	加賀谷哲之	日本企業の費用収益対応度の特徴と機能
	阪智香・大鹿智基	CO2排出量の株価説明力と情報開示の影響
	矢澤憲一	コーポレート・ガバナンス, 監査報酬, 利益管理の関連性
2012年度	中條祐介	中期経営計画情報の自発的開示行動とその企業特性
	町田祥弘	監査時間の国際比較に基づく監査の品質の分析
	安酸健二	経営者業績予想におけるコスト予想に関する実証研究 – 管理会計からのアプローチ –
2013年度	該当なし	
2014年度	長谷川恵一	観光産業におけるビジネスモデルの変革と管理会計 – 宿泊業を中心として
	宮本京子	監査リスク・アプローチに対するイノベティブ・チャレンジ
2015年度	野間幹晴	退職給付に係る負債が業績に与える影響 – 退職給付引当金と未認識債務の相違
	林隆敏	アメリカの処分事例にみる職業的懐疑心
	挽文子	管理会計の多様性と普遍性
2016年度	該当なし	
2017年度	小谷学	レギュレーションFD, アナリストによる情報取得, および公共財問題
	永見尊	公正価値監査における合理性の判断規準

2018年度	竹原均	アセットプライシングモデル選択と会計発生高アノマリー – 機能的固定仮説への反証 –
	中野貴之	セグメント財務報告における経営者の裁量行動 – 上場企業の内部データに基づく検証 –
2019年度	該当作なし	
2020年度	該当作なし	
2021年度	該当作なし	
2022年度	該当作なし	
2023年度	応募なし	
2024年度	該当作なし	